

## コラム 古事記の中の天文現象

作花一志（京都情報大学院大学）

今年で成立 1300 年となる古事記の中には天岩屋戸日食の他にも天文記事と思える記載があります。最初の記載は天岩屋戸事件の前の段に載っています。

スサノヲが高天原にやって来るのでアマテラスは男装して待ち構える。ところが決闘ではなく天の安の河で「誓ひ（うけい）」によって決着をつけることになった。まず、スサノヲの十拳剣（とつかのつぎ）から 3 柱の女神（タキリヒメ、イチキシマヒメ、タキツヒメ）が生まれる。次にアマテラスの八咫（やさか）の勾玉から 5 柱の男神（アメノオシホミミ、アメノホヒ、アマツヒコネ、イクツヒコネ、クマノスクビ）が生まれる。このうけいでは女神を生んだスサノヲの勝ちであった。

姉弟対決で大乱戦になるかと思ったら、ジャンケンみたいな平和的解決で何よりです。これを強引ではあるが「3 女神とはオリオンの三つ星で、5 男神とは水星・金星・火星・木星・土星の五惑星であり、天の川のほとりで起こった五惑星集合」と解釈します。

次に天岩屋戸事件と天孫降臨の間にこんな記述があります。

出雲平定のため高天原からアメノワカヒコが派遣されるが、目的を果たせず処刑され、その葬儀に雁、鷺、かわせみ、雀、雉が参列した。

横尾氏の提案に従いこの事件も 5 惑星の集合という天象と考えてみます。そこで紀元 1 年～400 年の間に 5 惑星が 45 度以内に収まる日を探してみましよう。太陽近くで見えないものは除き、14 回見つかりました。

最初の現象に関するものとしておうし座への惑星集合が 3 回ありますが、115 年 6 月 5 日、292 年 6 月 8 日の場合には、おうし座に 5 惑星が見える時刻にはオリオン座はまだ東の地平線下です。そこで 234 年 4 月 2 日の日没後が最適となります。下図のように多くの 1 等星や 5 惑星が見られ豪華な星空となっています。

2 番目の事件に相当する天象としては 272 年 8 月 1 日の日没後または 332 年 10 月 6 日の日の出前が見つかりますが、八日八晩のお通夜という古事記の記述には前者の方がふさわしいようですね。この後出雲の国譲り・天孫降臨と続き、邪馬台国（北九州か近畿かは知りませんが）は出雲へ進出していきます。

